

肝炎治療の最新情報

こんなに変わった！C型肝炎治療



大分医療センター 消化器内科

山下 勉



本日の内容

① インターフェロン治療について

② インターフェロンフリー治療について

③ 今後の課題

本日の内容

① インターフェロン治療について

② インターフェロンフリー治療について

③ 今後の課題

当院でのインターフェロン症例数の年次推移

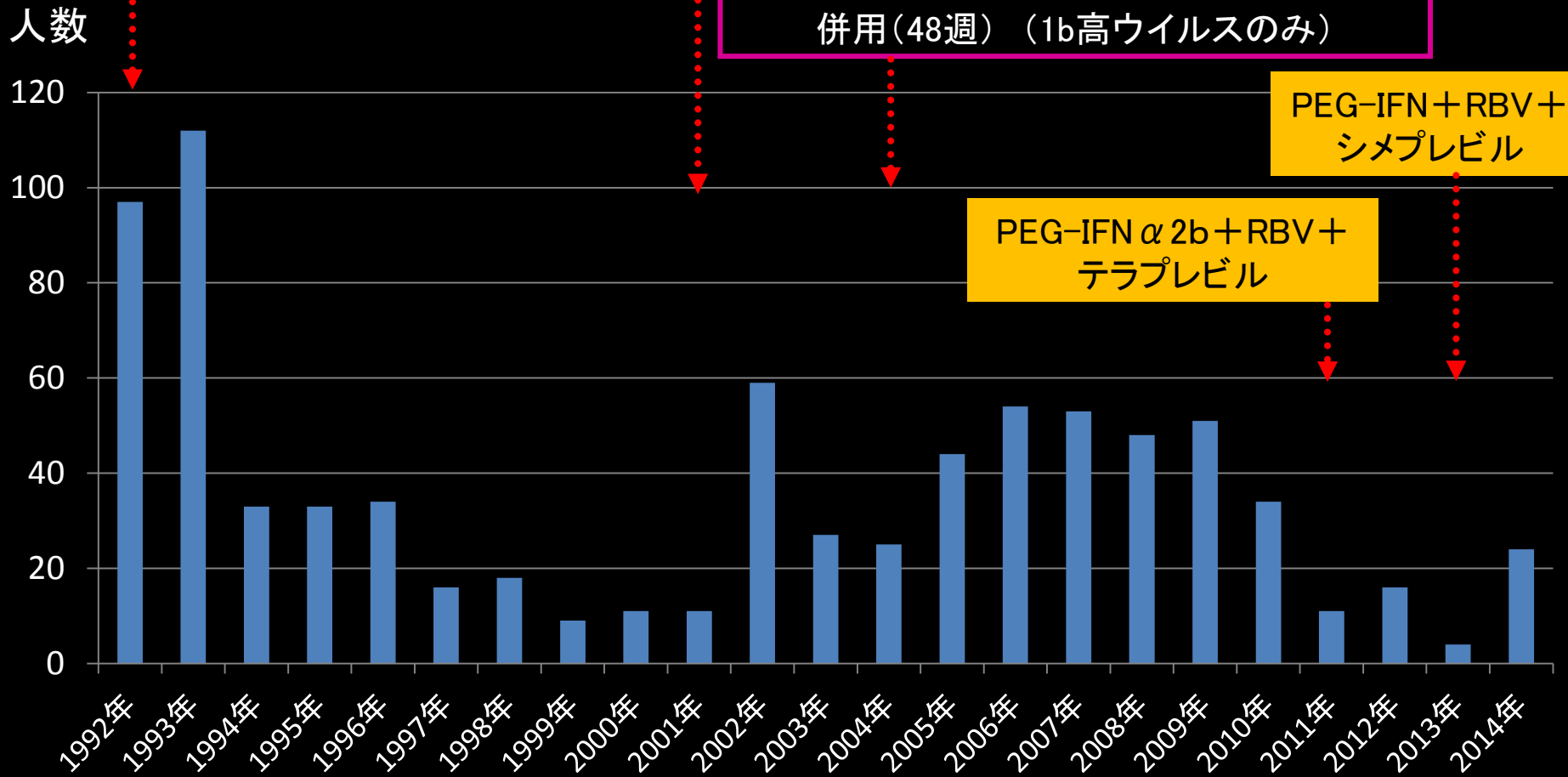
インターフェロン(IFN) α

IFN+リバビリン(RBV)併用

PEG-IFN α 2b (ペグイントロン) + RBV
併用(48週) (1b高ウイルスのみ)

PEG-IFN + RBV +
シメプレビル

PEG-IFN α 2b + RBV +
テラプレビル



インターフェロン療法の障害

副作用がき
つい…

効かな
いらし
い…

仕事に支
障が出
る…

高齢だ
し…

入院しな
いと…

お金がか
かる…

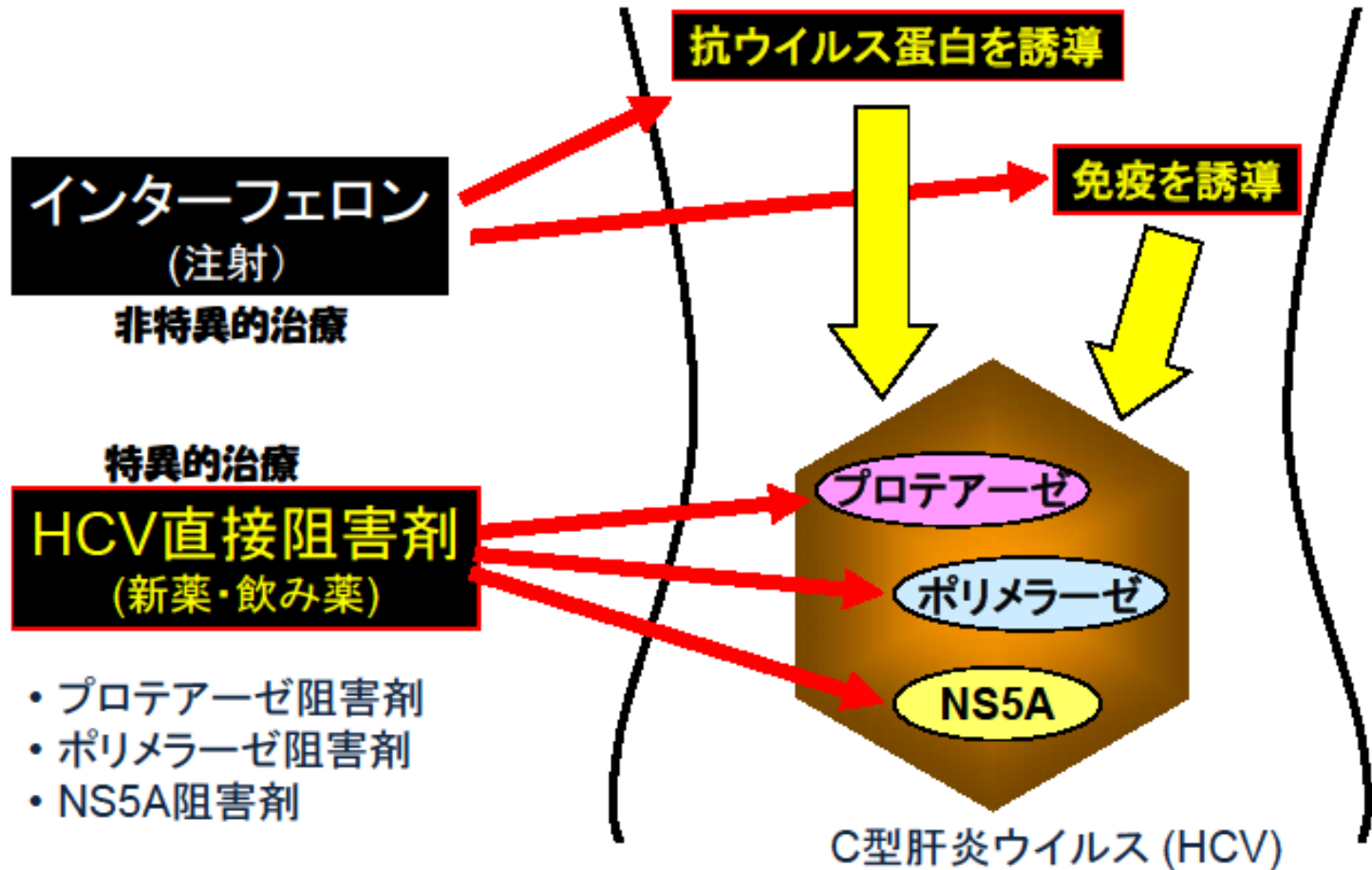
本日の内容

① インターフェロン治療について

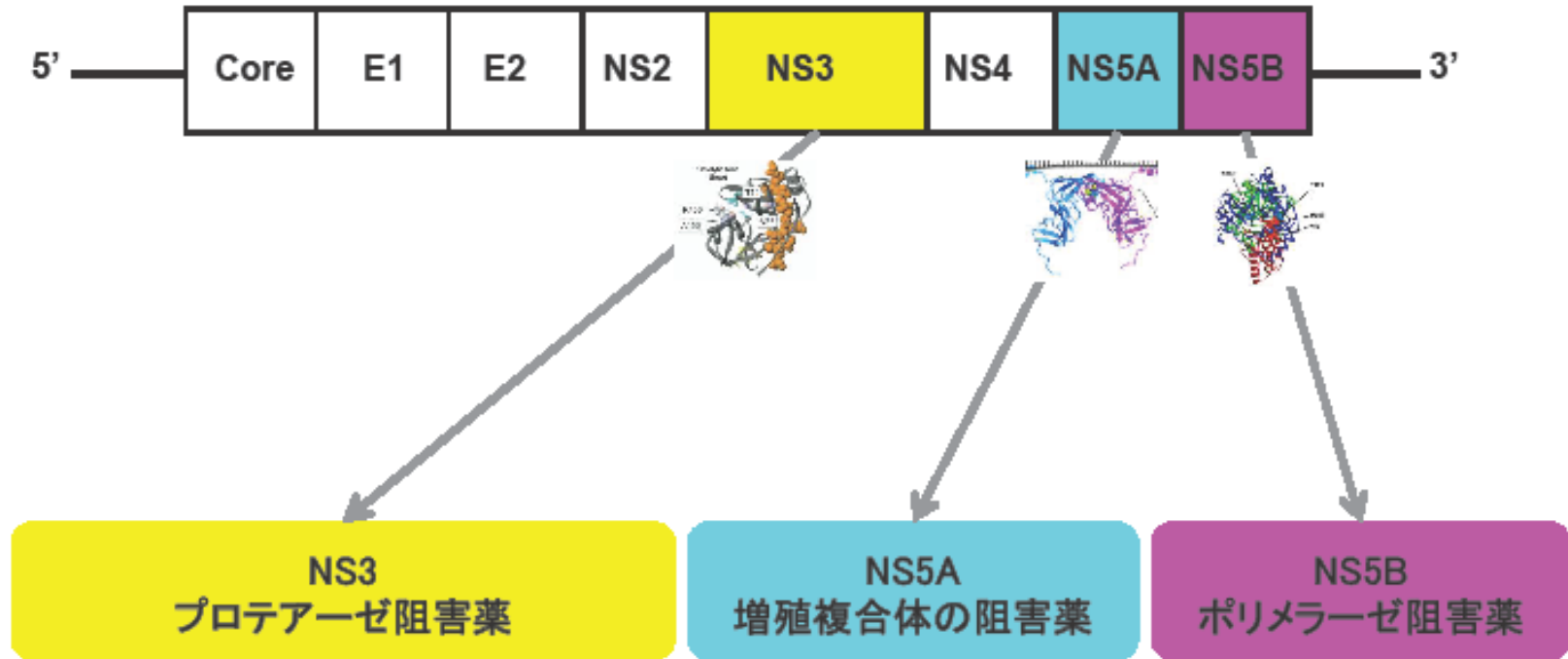
② インターフェロンフリー治療について

③ 今後の課題

インターフェロンとHCV直接阻害剤の作用の違い



抗ウイルス薬のターゲット



テラプレビル、シメプレビル、バニプレビル

アスナプレビル

パリタプレビル

ダクラタスビル

レジパスビル

オムビタスビル

ソホスブビル

IFNフリー治療で使用される薬 1型

ダクラタスビル・アスナプレビル



2014年9月発売
1日2回投与
6か月間の治療
治療総額約265万円
耐性ウイルスでは効きにくくなる
肝機能障害の副作用がある
腎機能に関係なく使用可能

ソホスブビル・レジパスビル



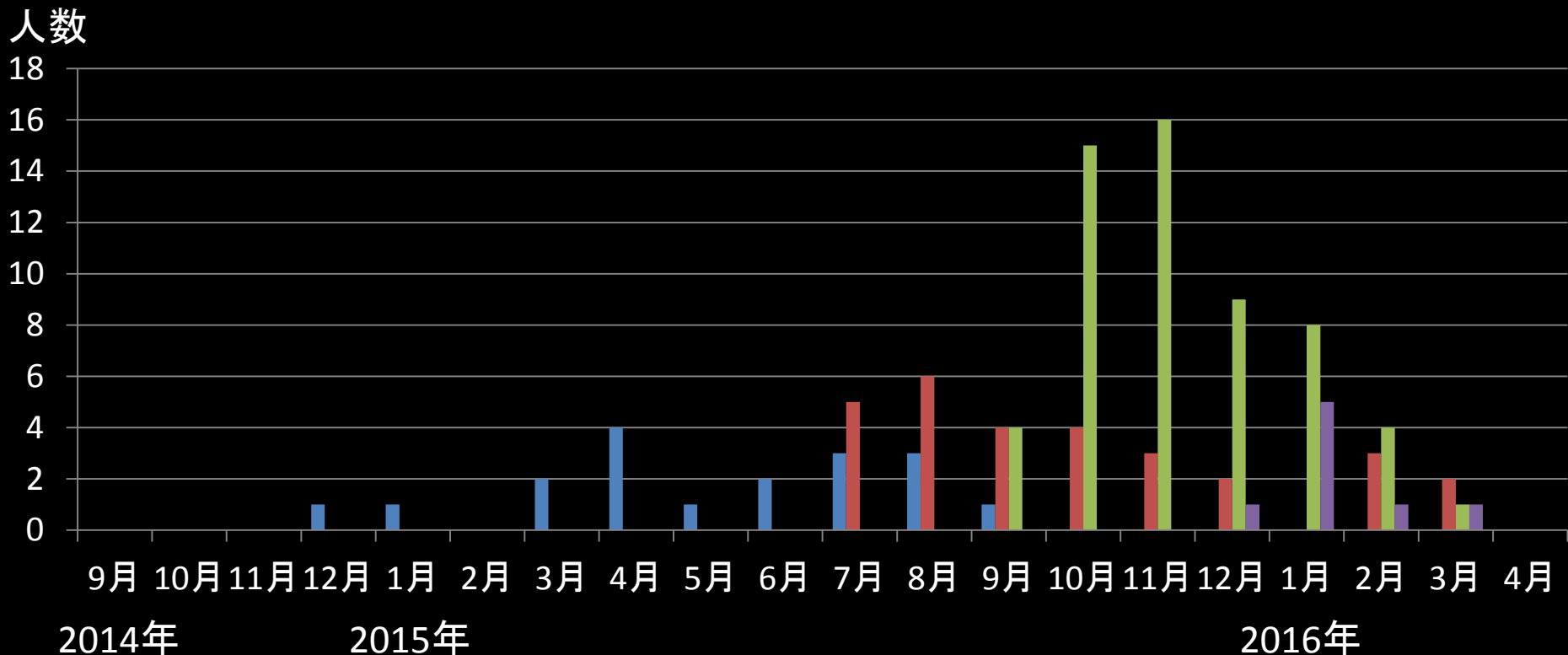
2015年9月発売
1日1回投与
3か月間の治療
治療総額約673万円
耐性ウイルスでも効果変わらない
肝機能障害の副作用が少ない
腎機能障害の場合は使用できない

オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル



2015年11月発売
1日1回投与
3か月間の治療
治療総額約450万円
耐性ウイルスでは効きにくくなる
肝機能障害の副作用が少ない
腎機能に関係なく使用可能

当院でのIFNフリー症例の症例数の推移



■ ダクラタスビル・アスナプレビル

■ ソホスブビル・リバビリン

■ ソホスブビル・レジパスビル

■ オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル

当院での治療薬別の背景の比較

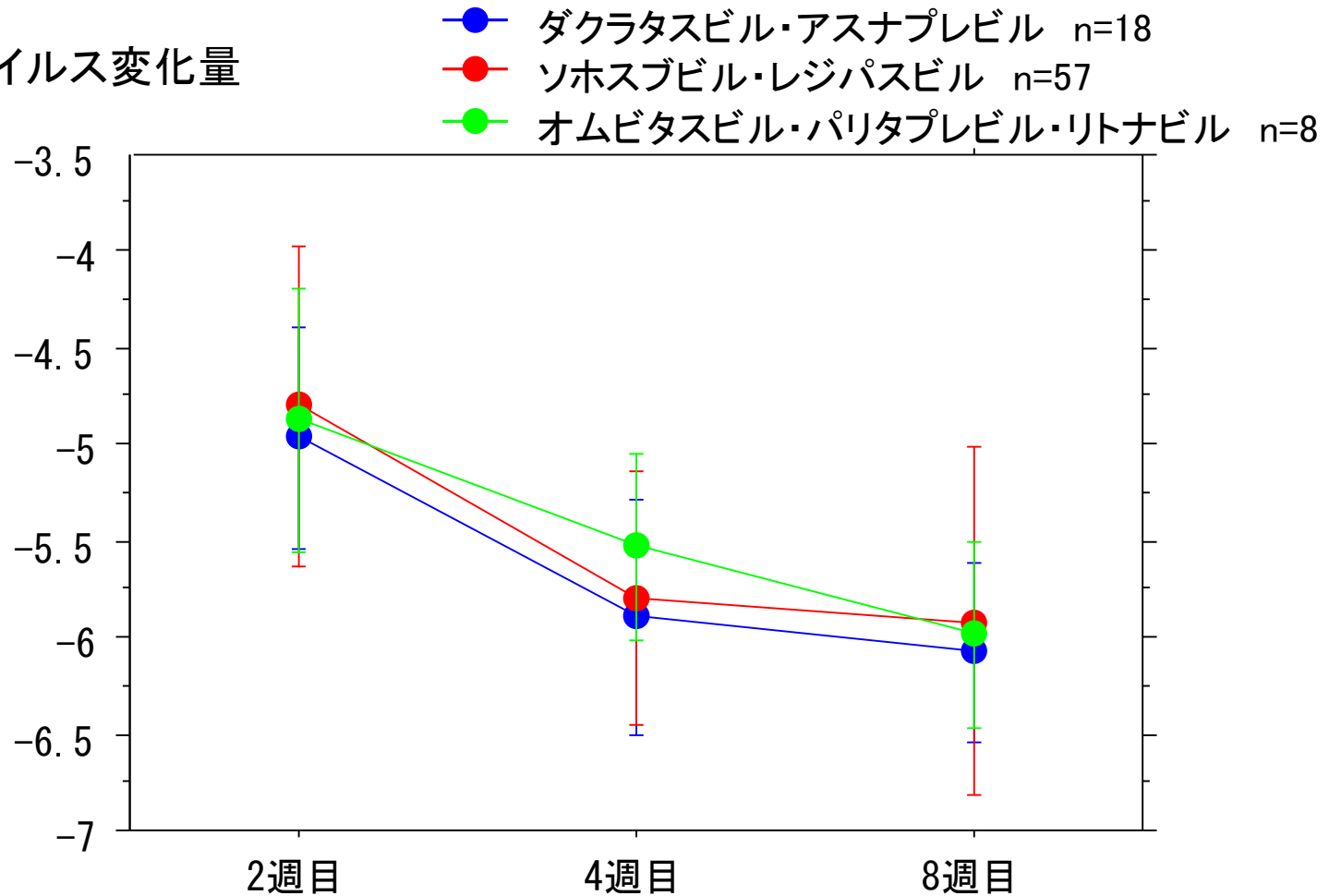
	1型			2型
	ダクラタスビル・ アスナプレビル (n=18)	ソホスブビル・ レジパスビル (n=57)	オムビタスビル・ パリタプレビル・ リトナビル (n=8)	ソホスブビル・ リバビリン (n=26)
年齢中央値(範囲)	70歳(52~80)	70歳(29~84)	73歳(61~77)	69歳(37~81)
男性	6例(33.3%)	17例(29.8%)	1例(12.5%)	15例(57.7%)
HCVRNA(平均±標準偏差)	6.1±0.47	6.0±0.54	6.0±0.53	5.6±0.97
ALT中央値(範囲)	51(16~235)	36(16~168)	25(12~138)	39(7~194)
肝硬変	7(38.9%)	8(14.0%)	1(12.5%)	3(11.5%)
肝細胞癌既往あり	4(22.2%)	5(8.8%)	1(12.5%)	2(7.7%)
NS5A耐性変異あり	1(5.6%)	13/42(30.9%)	0(0%)	
インターフェロン治療歴あり	11(61.1%)	26(45.6%)	7(87.5%)	5(19.2%)

治療薬別の副作用の比較

	1型			2型
(%)	ダクラタスビル・ アスナプレビル	ソホスブビル・ レジパスビル	オムビタスビル・ パリタプレビル・ リトナビル	ソホスブビル・ リバビリン
鼻咽頭炎	30.2	—	0.8	1.4
頭痛	15.8	1.9	3.3	5.0
発熱	12.2	0.6	0.6	0.7
悪心	8.9	2.5	2.8	4.3
倦怠感	9.2	0.6	1.9	4.3
発疹・掻痒症	6.7	4.5	3.6	6.4
口内炎	—	2.5	1.4	2.9
貧血	0	1.3	1.1	11.4
ALT増加	15.8	—	0.6	—
心室性期外収縮	—	0.6	—	—
下腿浮腫	—	—	5.5	—

治療薬別のウイルス変化量と陰性化率

ウイルス変化量



ウイルス
陰性化率

ダクラタスビル・アスナプレビル	88.9%	100%
ソホスブビル・レジパスビル	83.9%	100%
オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル	62.5%	100%

ダクラタスビル・アスナプレビルの症例

69歳 女性

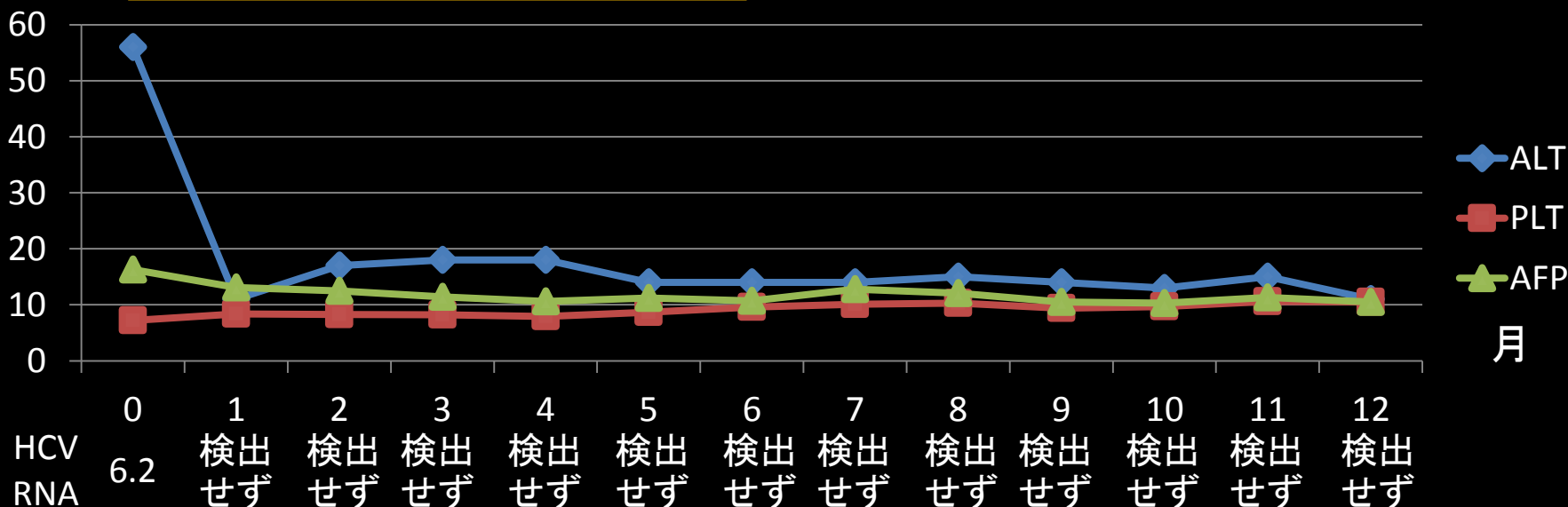
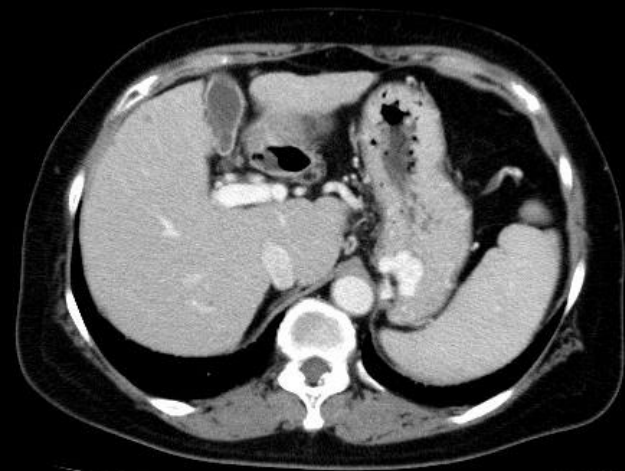
#1)C型肝硬変(Child A)

1型 6.2LogIU/ml

血小板数 7.2万

L31、Y93ともに変異なし

ダクラタスビル・アスナプレビル



ソホスブビル・レジパスビルの症例

68歳 男性

#1)C型慢性肝炎

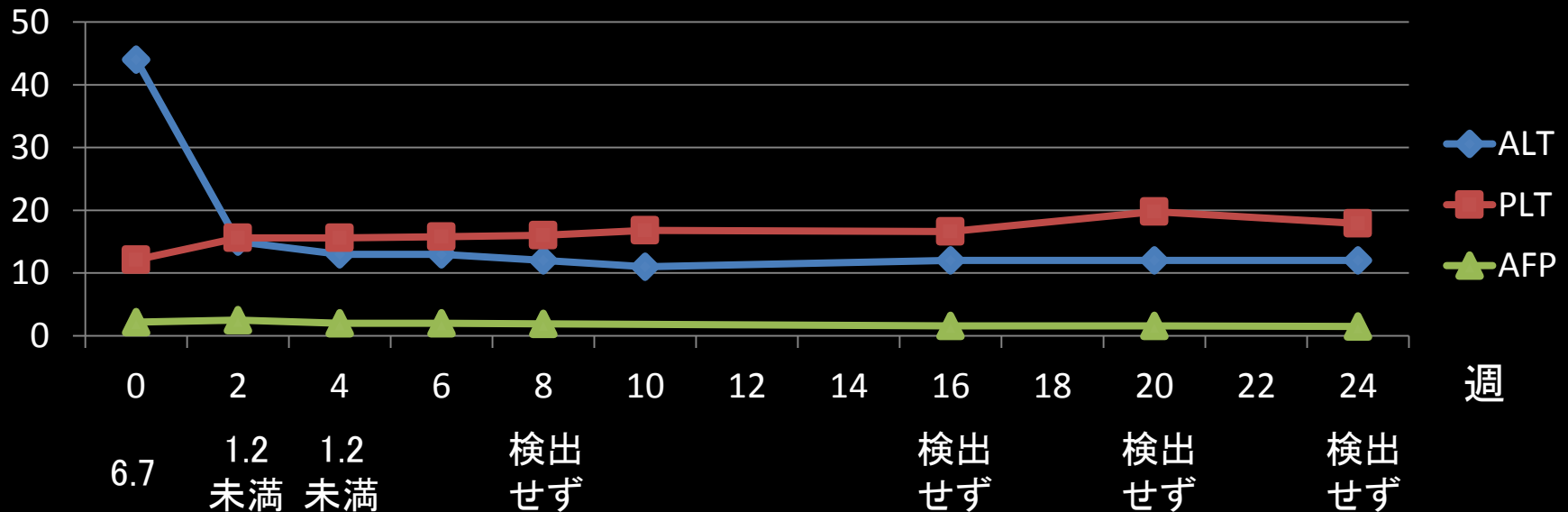
#2)関節リウマチ

1型 6.7LogIU/ml

血小板数 12.1万

Y93変異あり

ソホスブビル・レジパスビル



オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビルの症例

73歳 女性

#1)C型慢性肝炎

#2)高血圧

#3)多発性心室性期外収縮

1型 5.5LogIU/ml

血小板数 14.6万

L31、Y93ともに変異なし

アムロジン 5mg

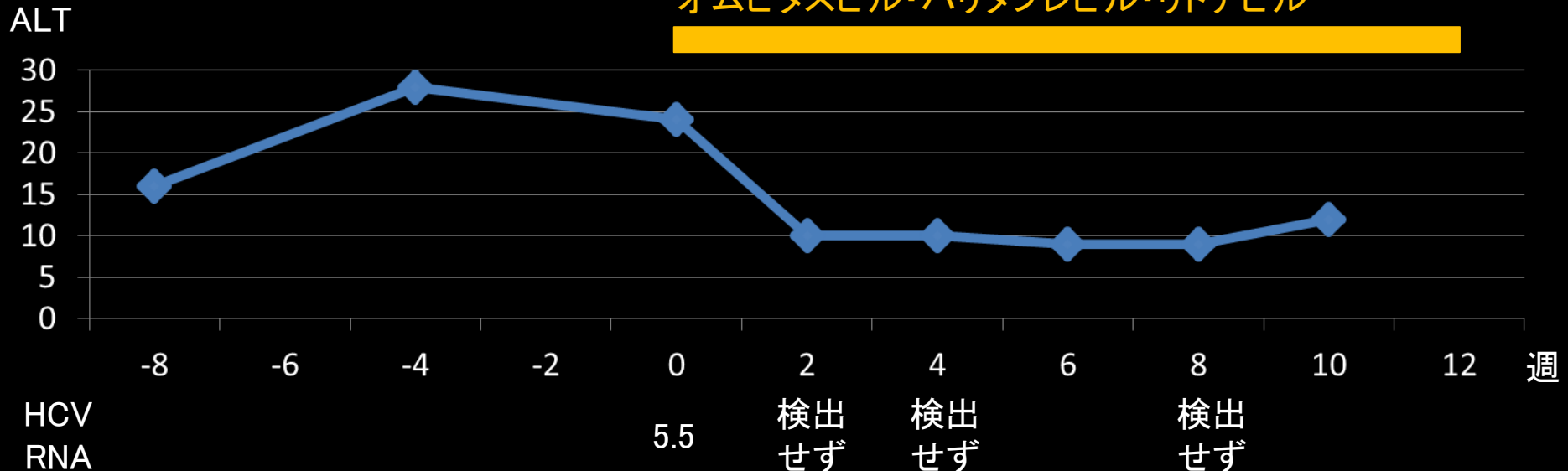


アバプロ 100mg

アバプロ 50mg



血圧 110~120/60~70 139/67 138/70 143/81 147/74 140/80



本日の内容

① インターフェロン治療について

② インターフェロンフリー治療について

③ 今後の課題

今後の課題

1. 透析患者さんの治療
2. 非代償性肝硬変の方の治療
3. SVR後の発癌

ご静聴ありがとうございました

